

令和元年版

柏市死亡小票分析

令和2年10月16日

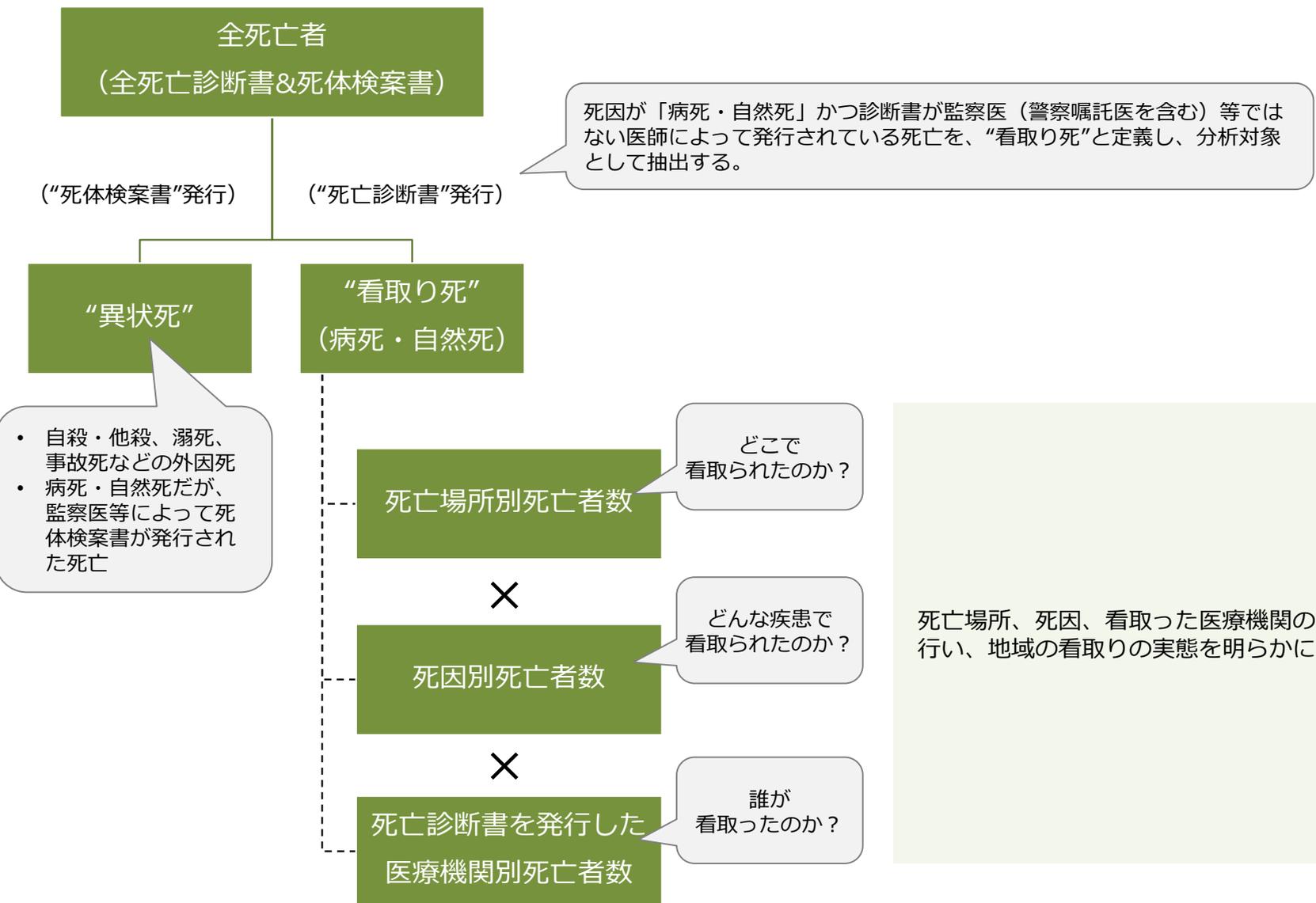
柏市保健福祉部 地域医療推進課

目次

Section.0	調査概要及び人口データ P.3
Section.1	全死亡者数と“看取り死”の推移 P.10
Section.2	自宅での“看取り死”の推移 P.17
Section.3	その他のデータ（老人ホームでの看取り） . . . P.23

調査概要及び人口データ

死亡小票分析のイメージ



死亡場所、死因、看取った医療機関のクロス分析を行い、地域の看取りの実態を明らかにする。

死亡小票データの見取り図

“看取り死”を主な分析対象とします

死亡分類

異状死
(死体検案書発行)

看取り死
(死亡診断書発行)

死亡した場所の種類

悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	etc
-------	-----	-------	-----

死因

病院

診療所

自宅

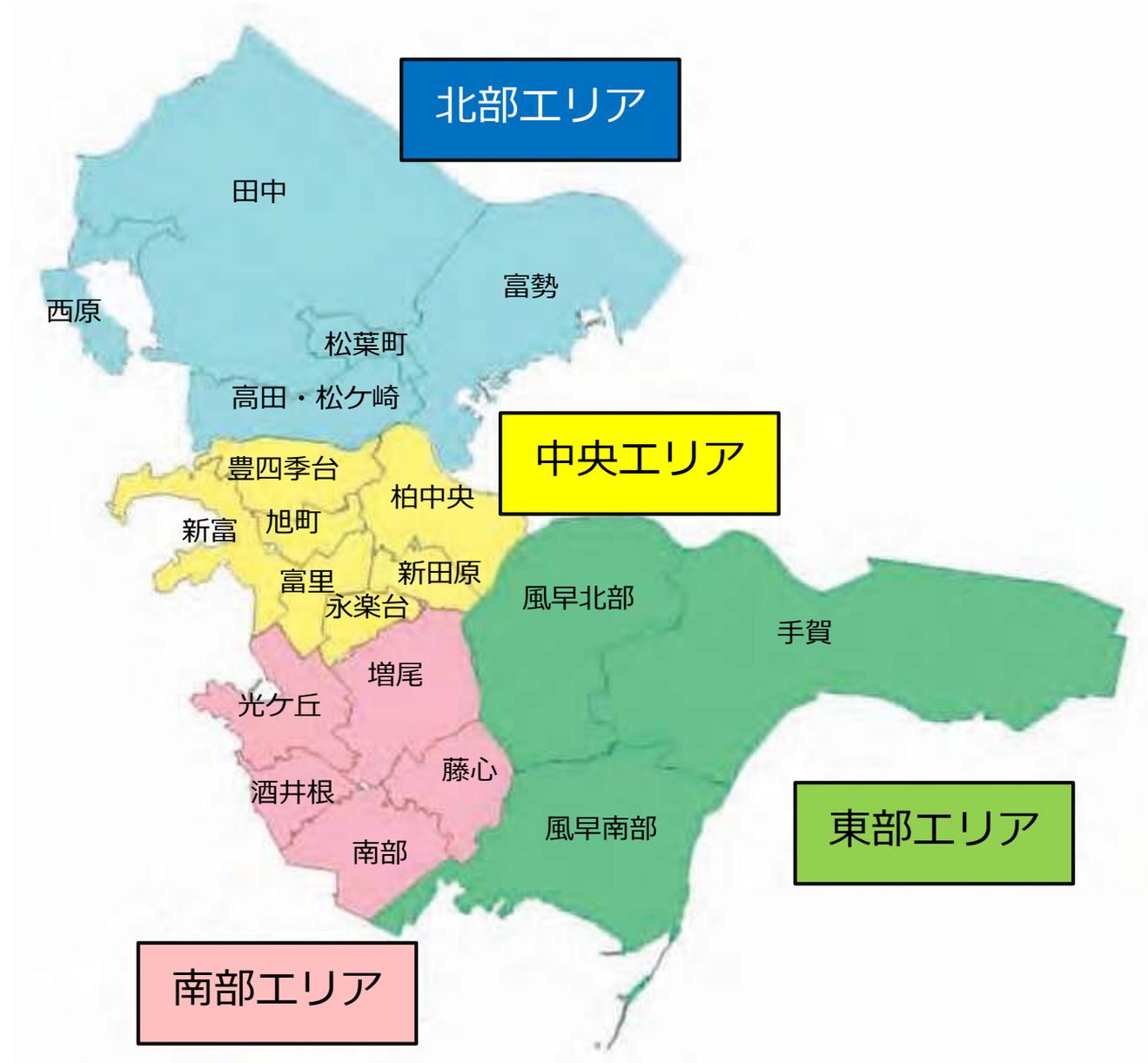
老人ホーム

老健

その他

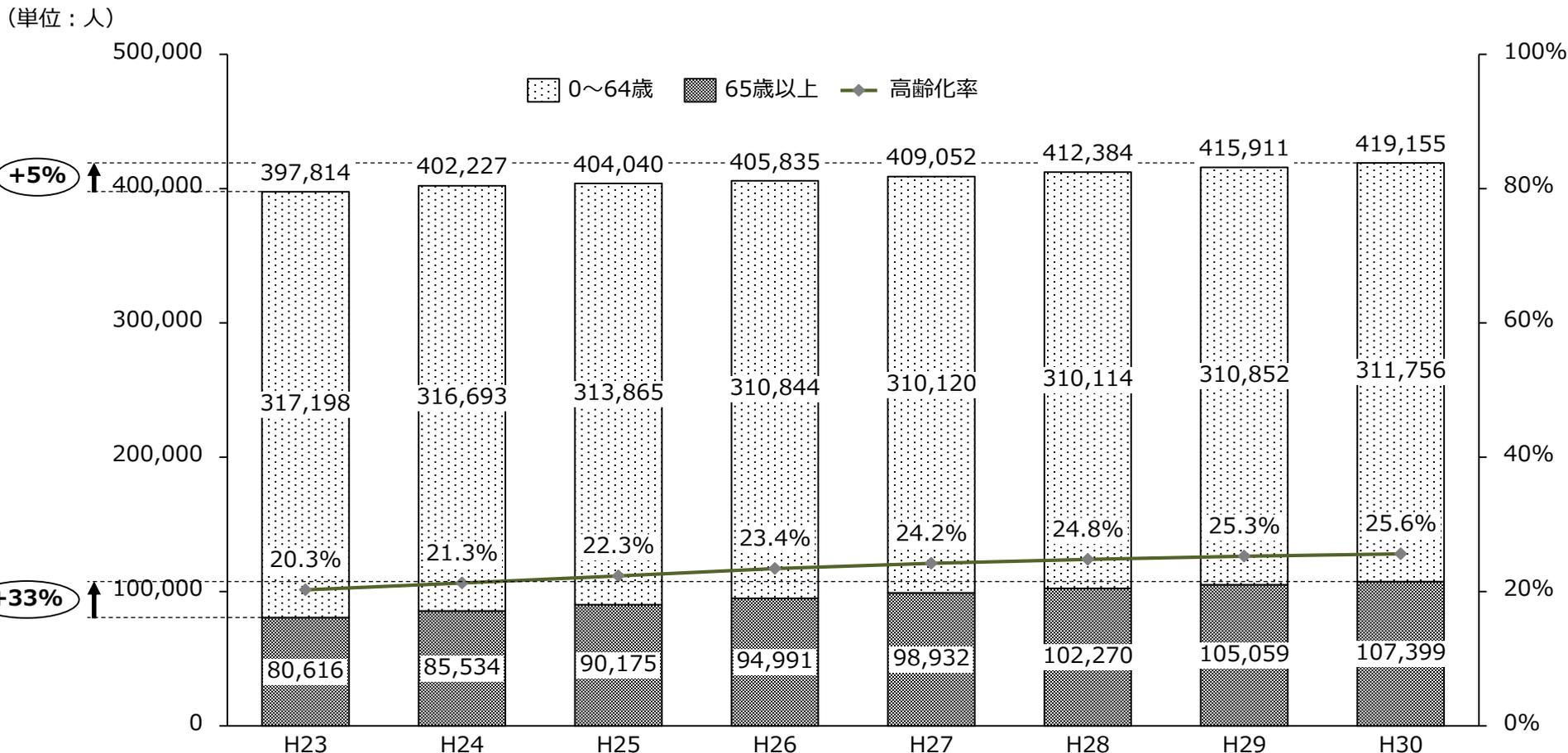
特別養護老人ホーム、
有料老人ホーム、サ高住、
グループホーム、
その他老人ホームを含む

柏市のエリア（地域）の分け方



柏市の人口推移と高齢化率

- 人口は一貫して増加している。
- 平成23年から全体の人口は5%増加したが、65歳以上では33%増加した。



出所：住民基本台帳（各年10月）

柏市の人口推移と高齢化率（エリア別）

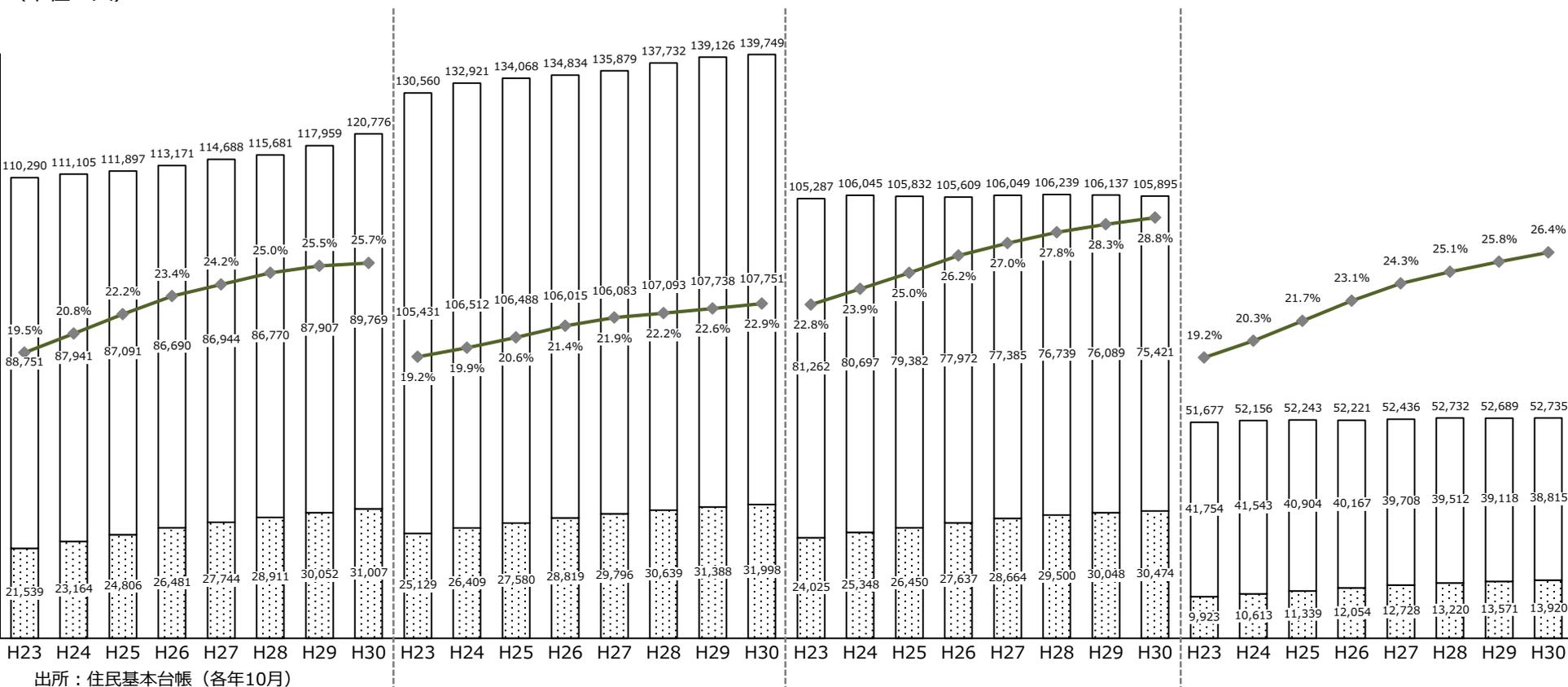
- どのエリアも人口は増加。特に北部と中央の増加が大きく、南部、東部はおおむね横ばいで推移している。
- 高齢化率はどのエリアも増加している。

南部

東部

□ 0～64歳 ▨ 65歳以上 ◆ 高齢化率

(単位：人)



出所：住民基本台帳（各年10月）

全死亡者と“看取り死”の推移

～死亡診断書・死体検案書の発行数の内訳～

- 死亡診断書とは…

医師が“診察または診療した患者”について発行する「死亡の事実を証明する書類」で、死亡の届け出をする場合には、添付書類として必ず提出しなくてはならない。

- 死体検案書とは…

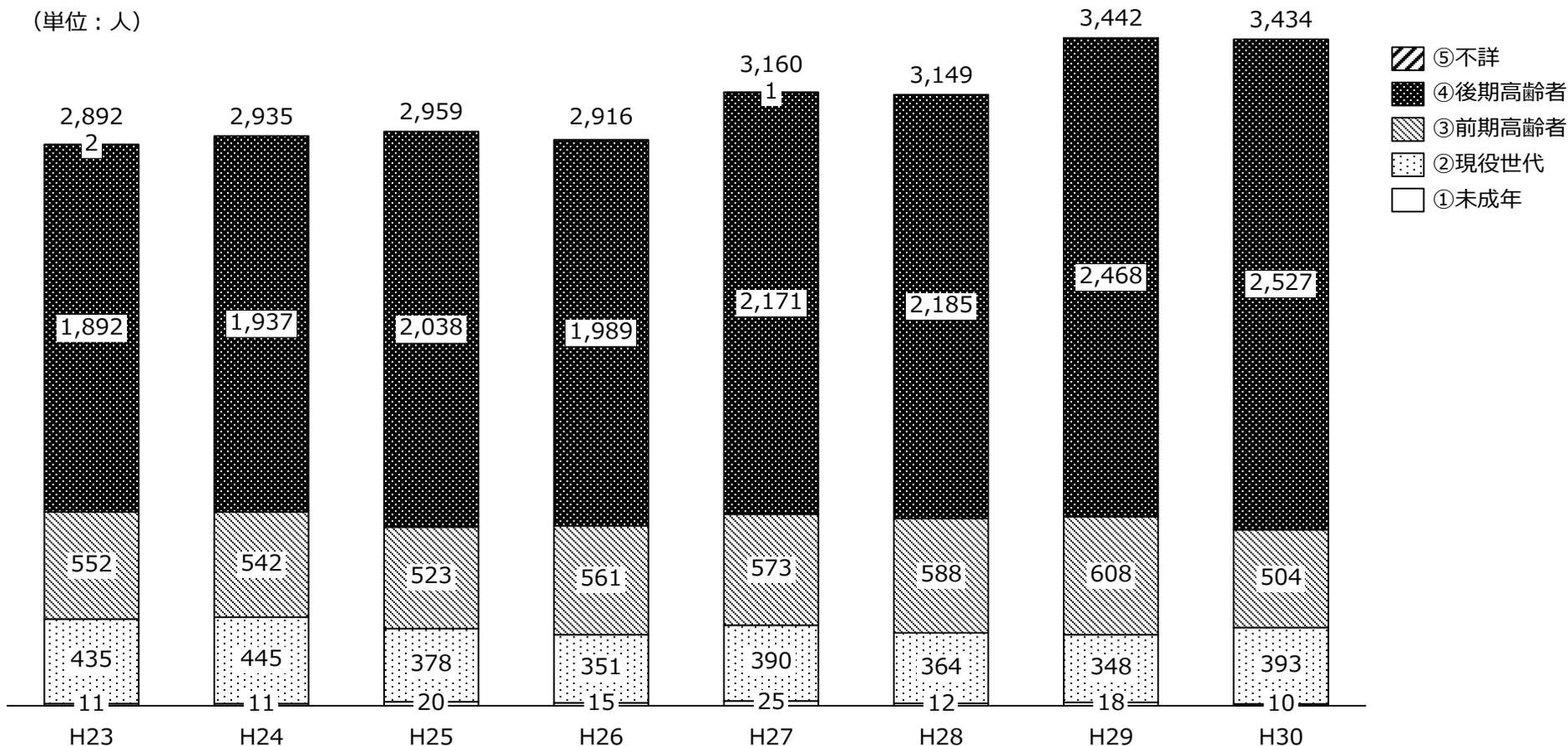
医師が“生前から診療していない人”の死に対して、検案した一定の事実によって、その人の死亡を証明する文書のこと。死亡診断書が発行されない死亡にはすべて死体検案書が発行される。

(ともに小学館日本大百科全書より引用,一部改変)

死亡者数の推移

- 死亡者数は増加傾向にあるが、平成30年は平成29年に比べ減少した。
- 増加分の多くは後期高齢者が占めている。平成30年は前期高齢者の死亡者数が前年に比較し少なかった。

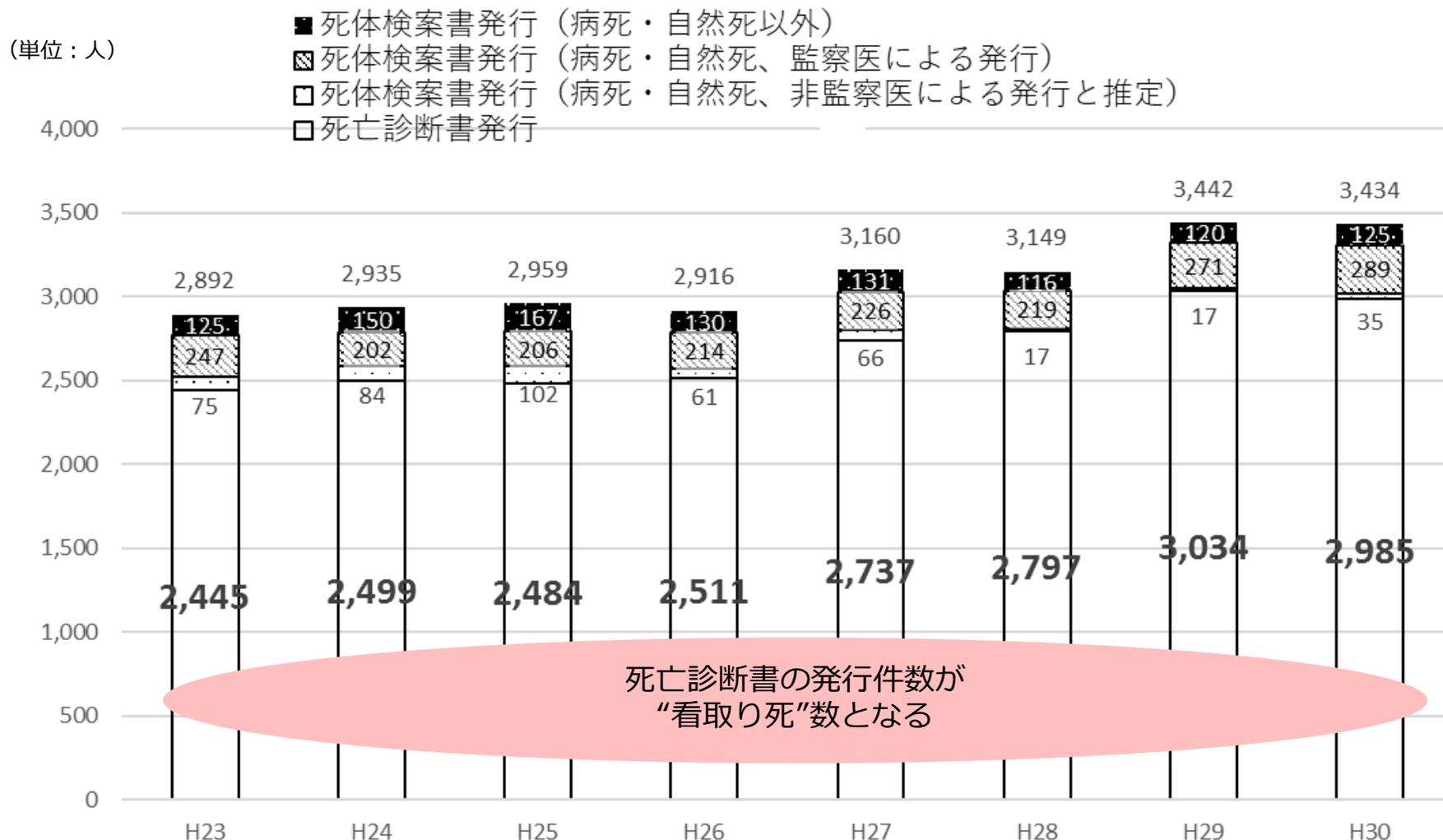
(単位：人)



*年齢区分は以下のように定義した。「①未成年：20歳未満」「②現役世代：20歳以上～65歳未満」、「③前期高齢者：65歳以上～75歳未満」、「④後期高齢者：75歳以上」

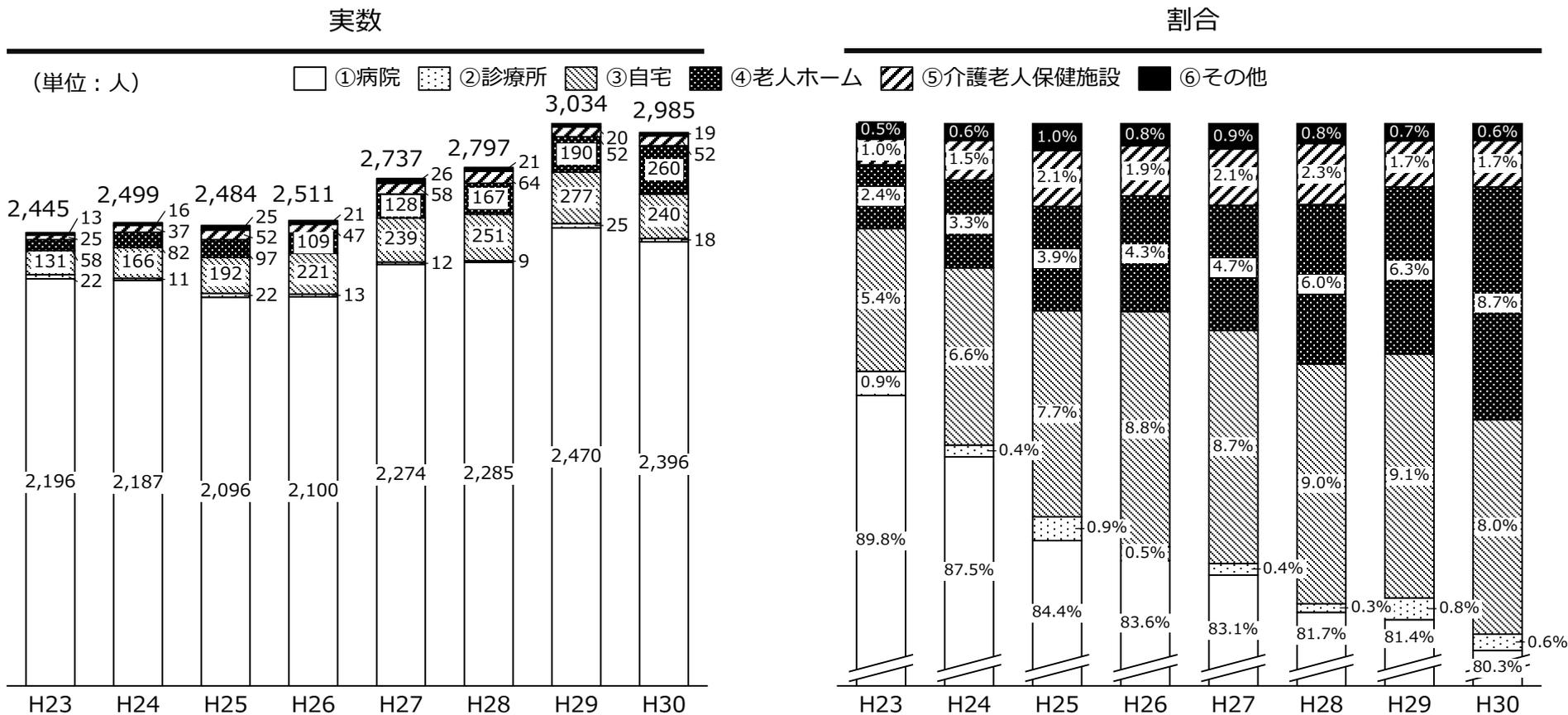
死亡診断書（死体検案書）発行数の推移

- 平成30年における死亡者数の減少は，死亡診断書発行数（＝“看取り死”数）の減少が影響している。



死亡場所別の“看取り死”数の推移

- 平成30年は病院，自宅，どちらも死亡者数が減少。老人ホームが増加している。
- 割合を見ると、平成22年から平成30年にかけて病院の看取りは約10%減少したのに対し、自宅は2.6%、老人ホームは6.3%増加している。



居住エリアごとの死亡場所別の“看取り死”数の推移

- どのエリアも“看取り死”数は増加傾向だが、平成30年は中央エリアを除き、減少となった。

北部

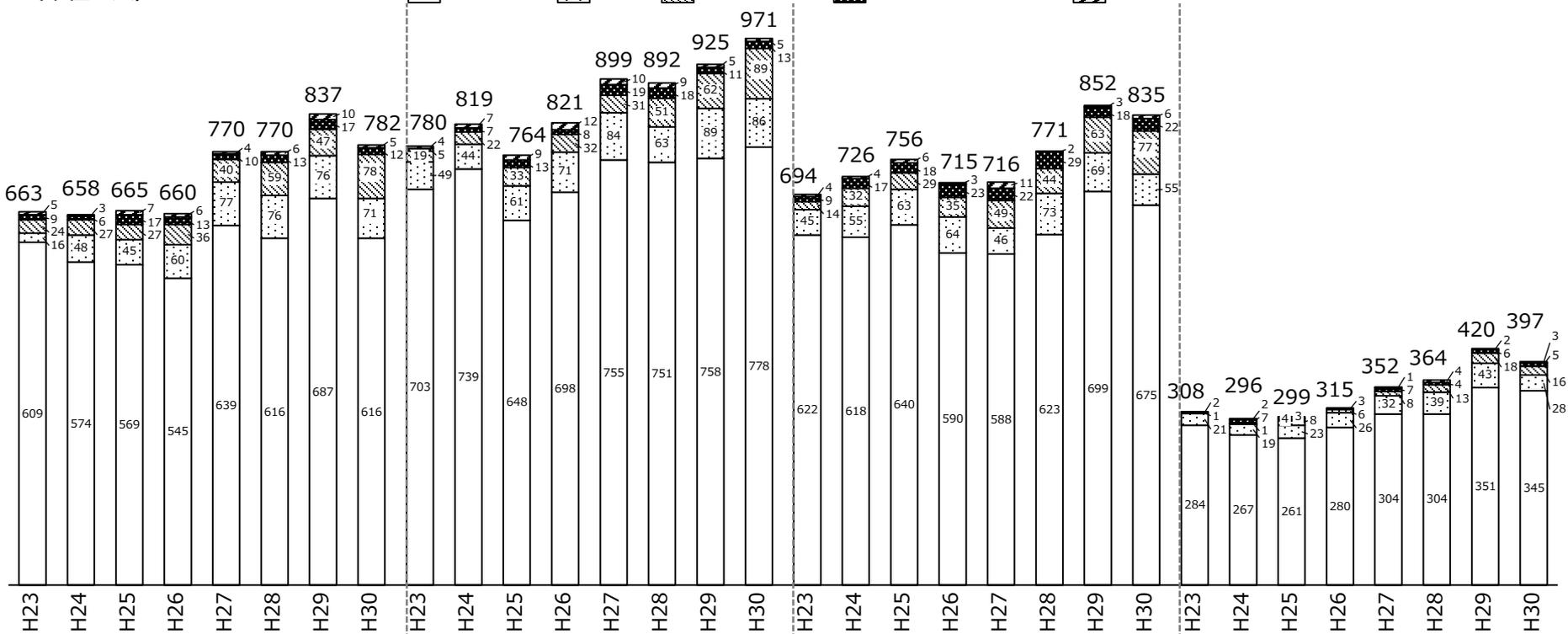
中央

南部

東部

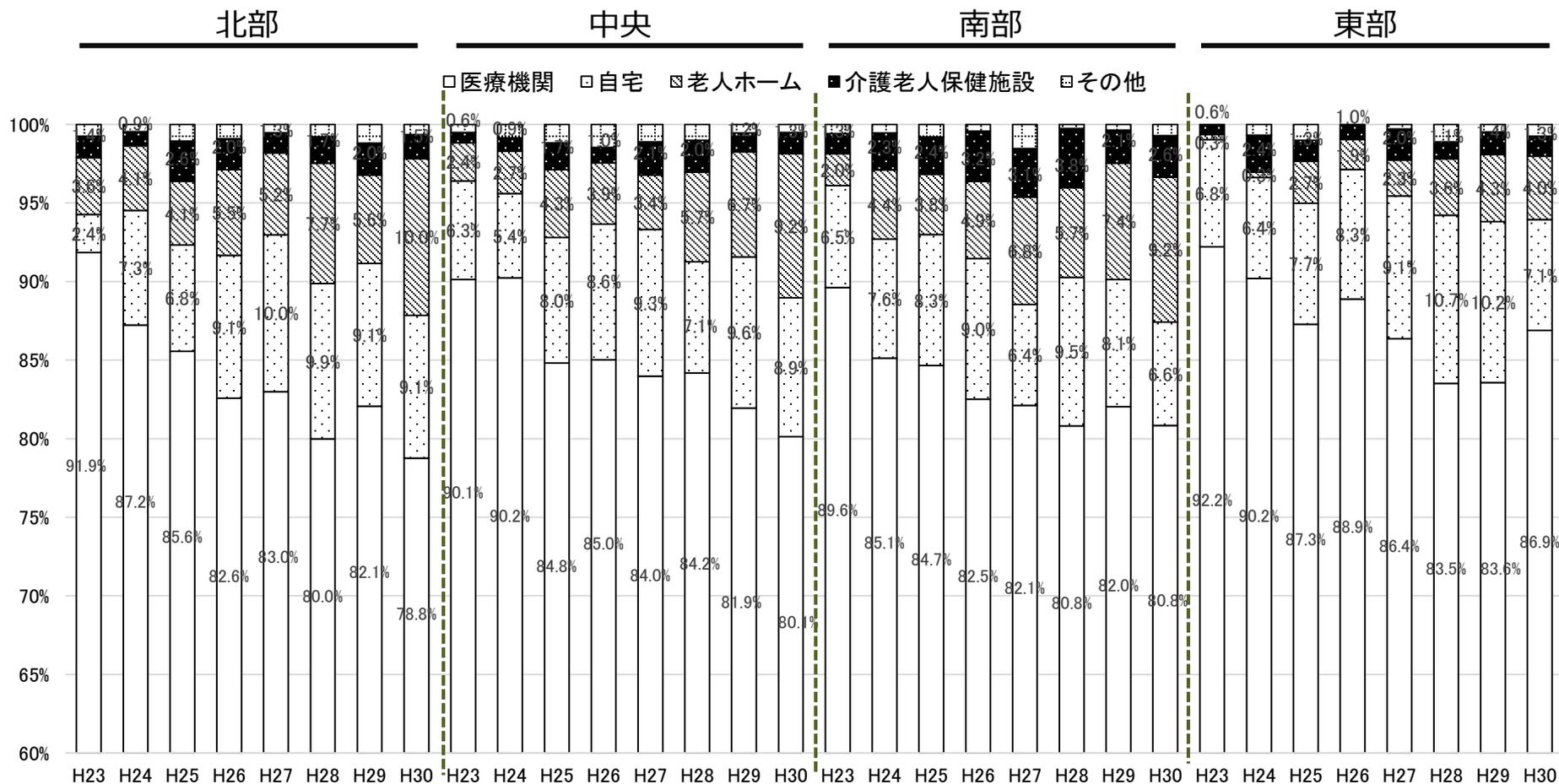
(単位：人)

医療機関
 自宅
 老人ホーム
 介護老人保健施設
 その他



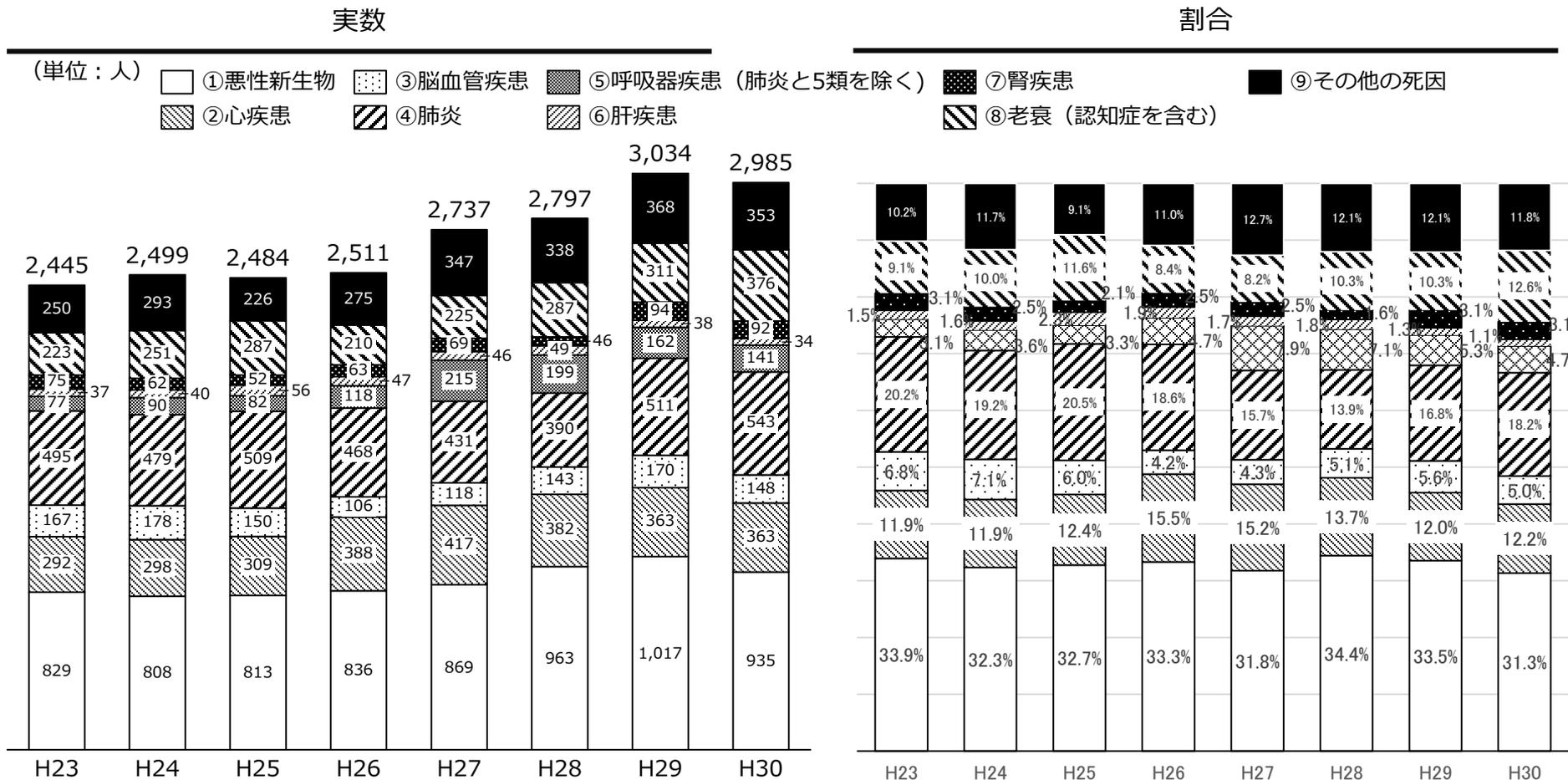
居住エリアごとの死亡場所別の“看取り死”割合の推移

- エリアごとに死亡場所の割合をみると、東部では他のエリアより老人ホームでの死亡割合が少なく、医療機関での死亡割合が多い傾向。



“看取り死”した方の死因の推移

- “看取り死”した方の死因の構成比率はおおむね横ばい。平成30年は平成23年以降で、老衰の割合が最も高かった。

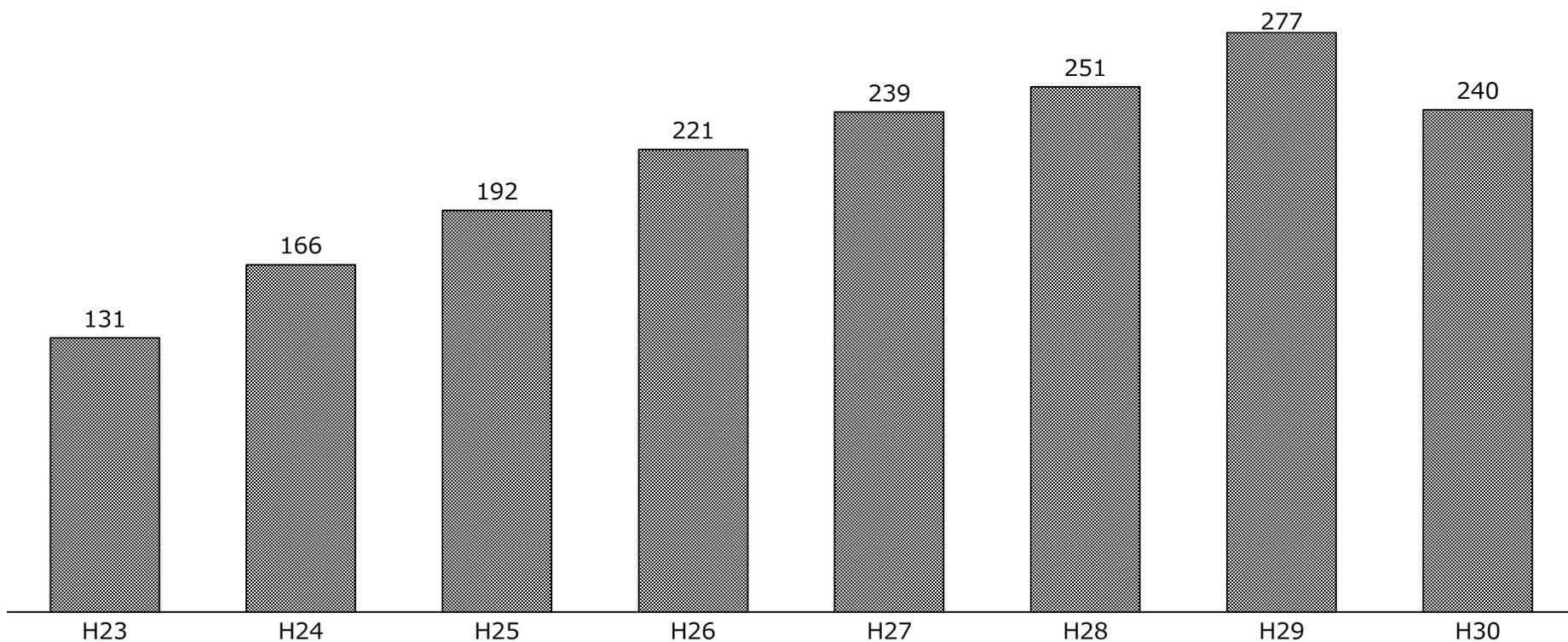


自宅での“看取り死”の推移

自宅での看取り件数の推移

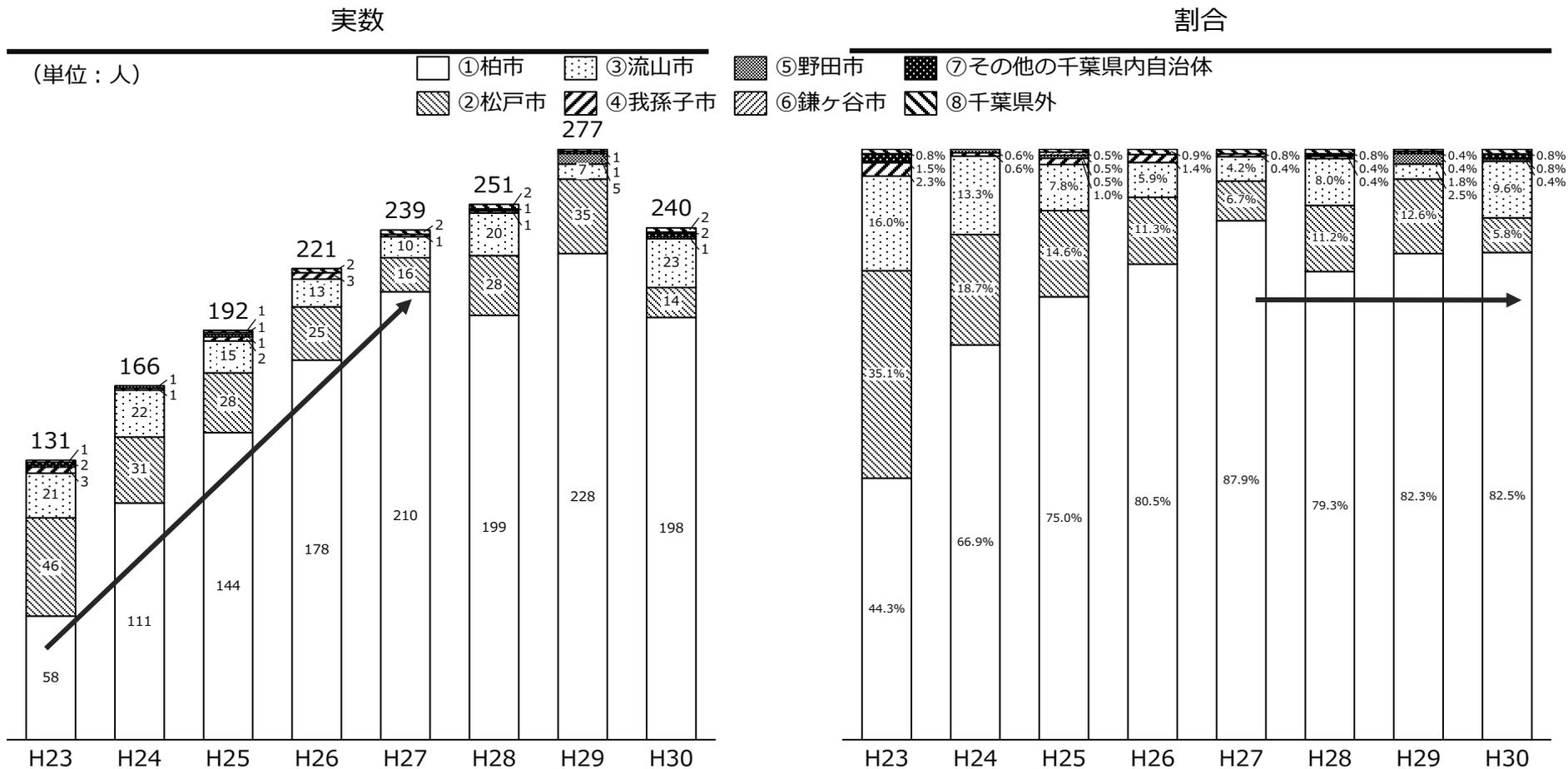
- 自宅での“看取り死”数は平成23年から平成29年にかけて増加したが、平成30年は減少となった。

(単位：人)



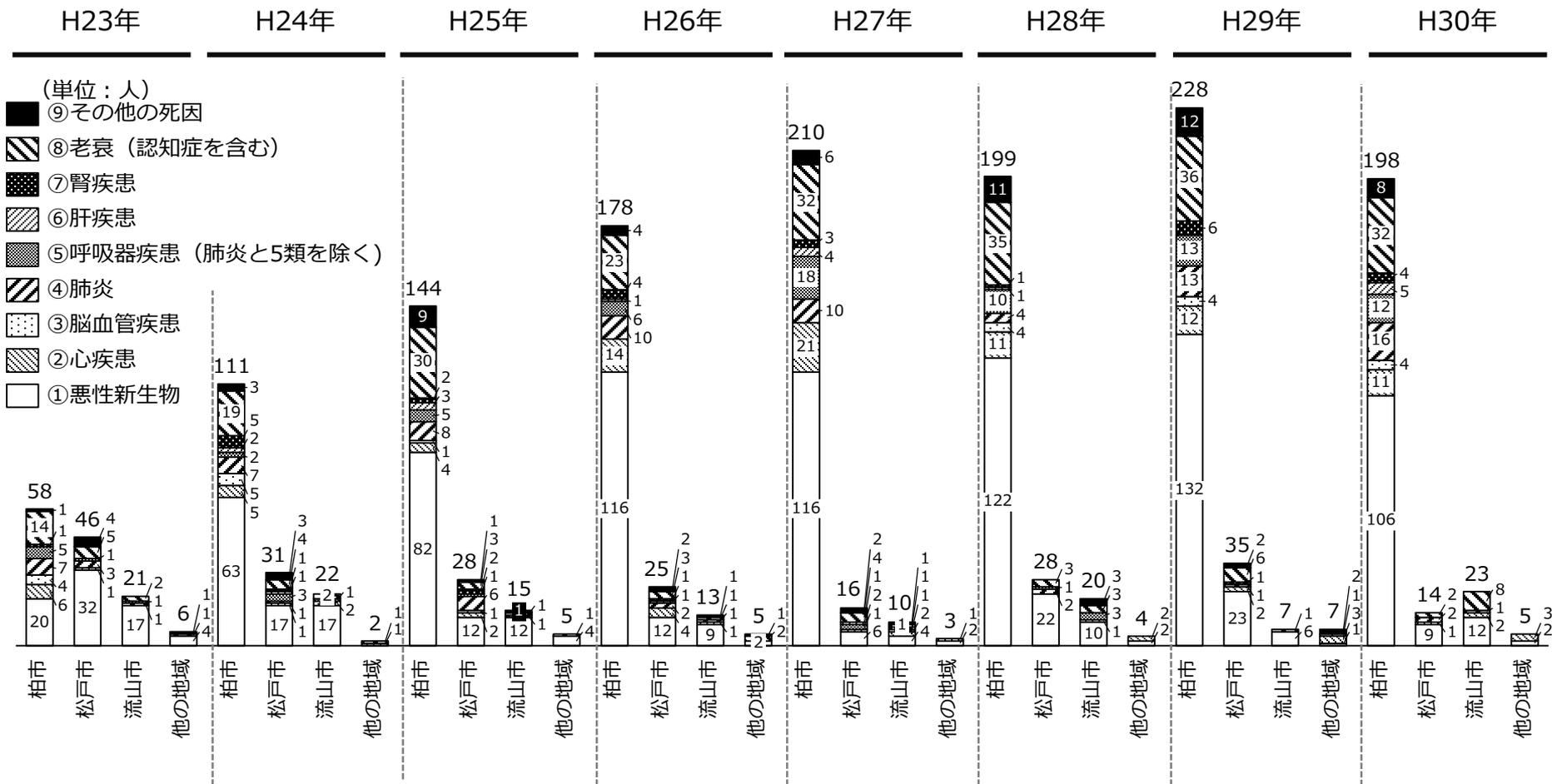
医療機関の立地別の自宅看取り件数の推移

- 柏市内の医療機関による看取り件数，割合ともに平成27年までは増加、それ以降は横ばいで推移している。
- 平成29年まで，近隣市では松戸市内の医療機関が最も多かったが，平成30年は流山市が最も多い。



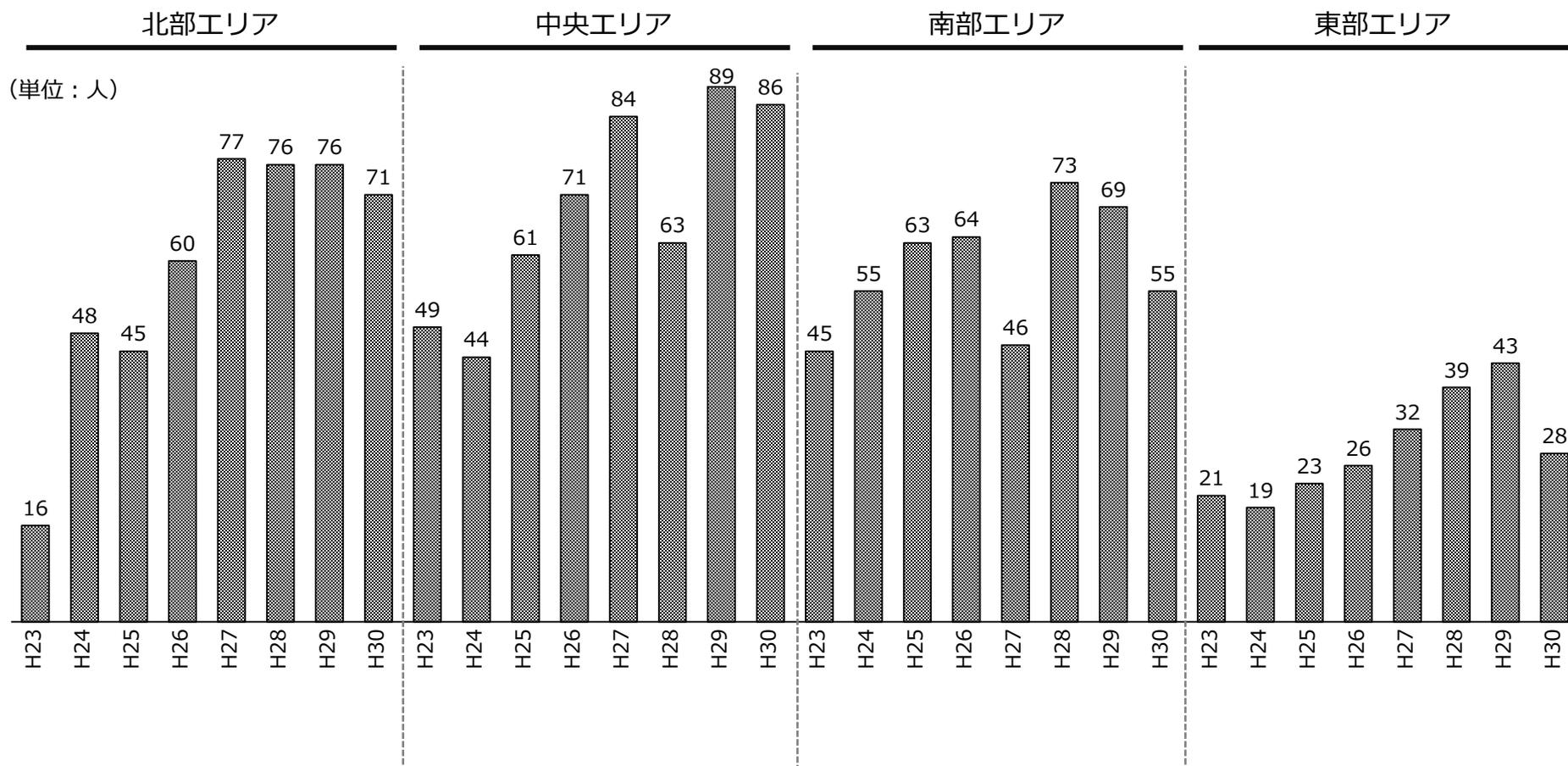
死因別・医療機関の立地別の自宅看取り件数の推移

- 死因別にみると、がんが一番多く、老衰が次に多い。他市医療機関も同様の傾向である。



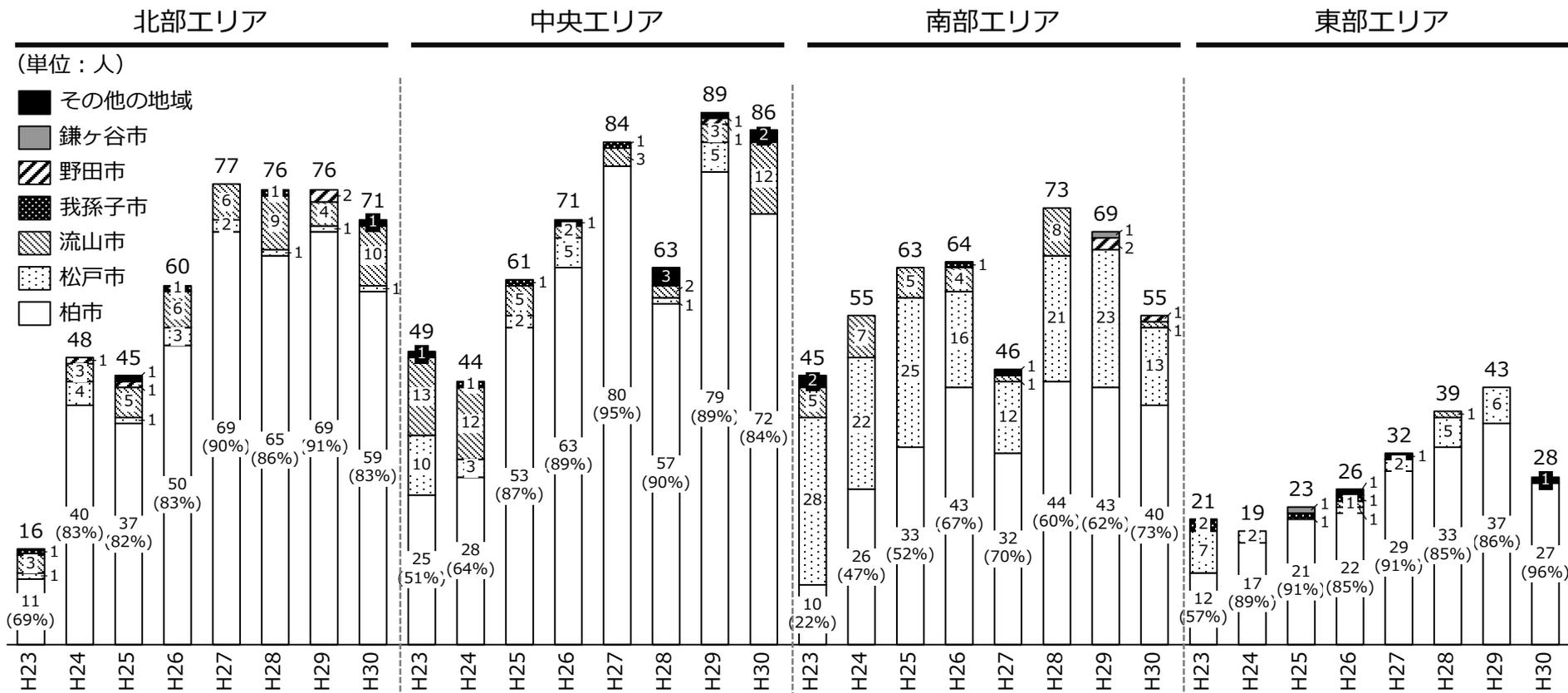
市内のエリア別の自宅“看取り死”数の推移

- 平成23年から“看取り死”数は増加していたが、ここ数年は鈍化傾向。
- 平成30年はどのエリアでも前年の看取り死数を下回っている。



市内居住エリアと看取った医療機関所在地のクロス分析

- 平成23年から比較すると、どのエリアも柏市内の医療機関による看取り件数・割合は増加傾向にある。
- 看取りの市内完結率では、東部エリアが最も高く96%、最も低い南部エリアでは73%だった。

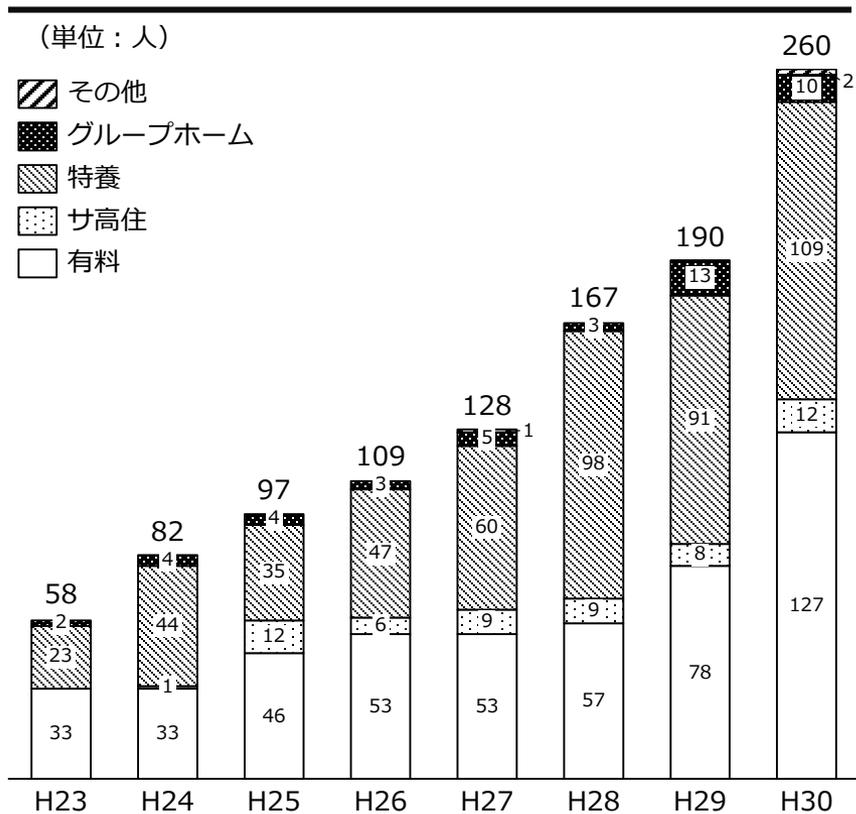


その他のデータ（老人ホームでの看取り）

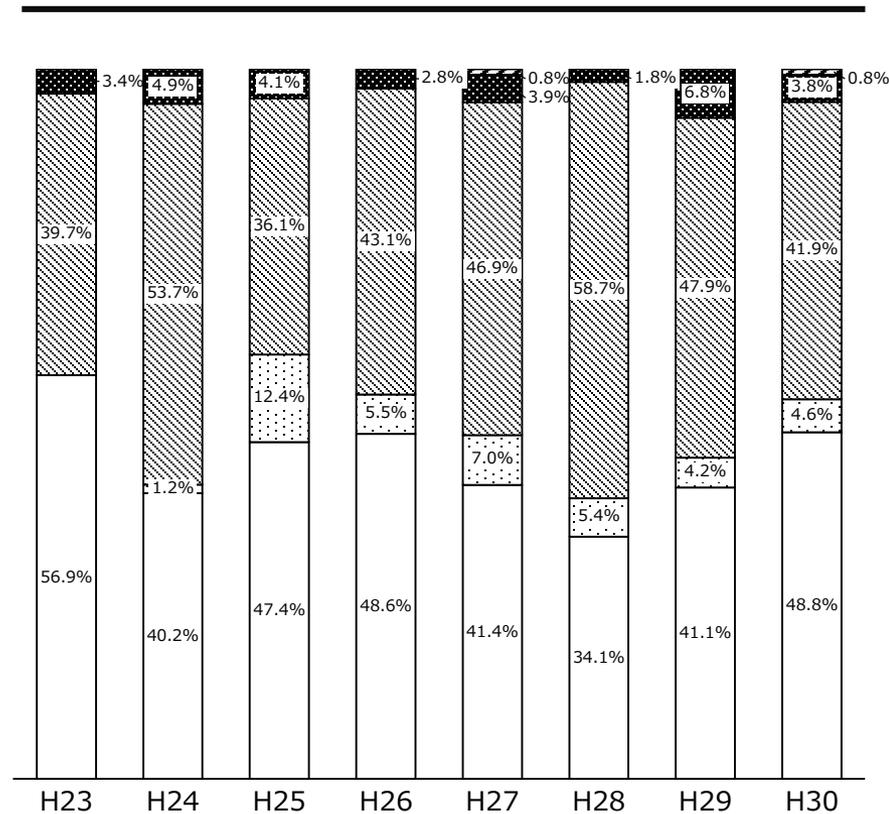
老人ホームの種別ごとの看取り件数の推移

- 有料老人ホーム、特養での看取り件数の増加幅が大きく、特に有料は前年から1.6倍に増加した。
- 平成25年から平成28年にかけて特養の割合は増加、平成29年以降は減少に転じ、平成30年には有料老人ホームの比率が最も大きくなった。

実数



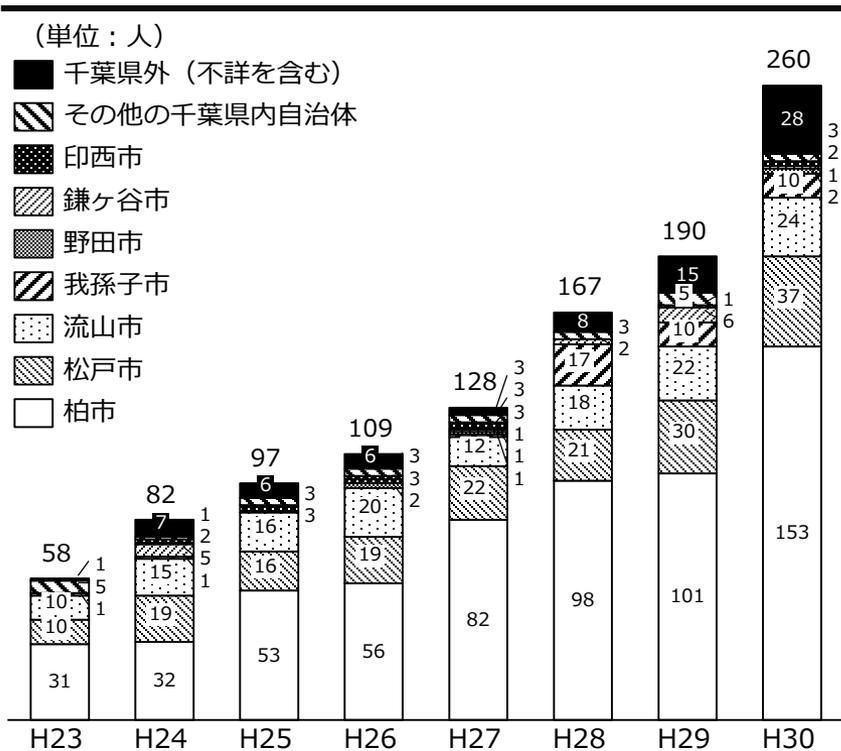
割合



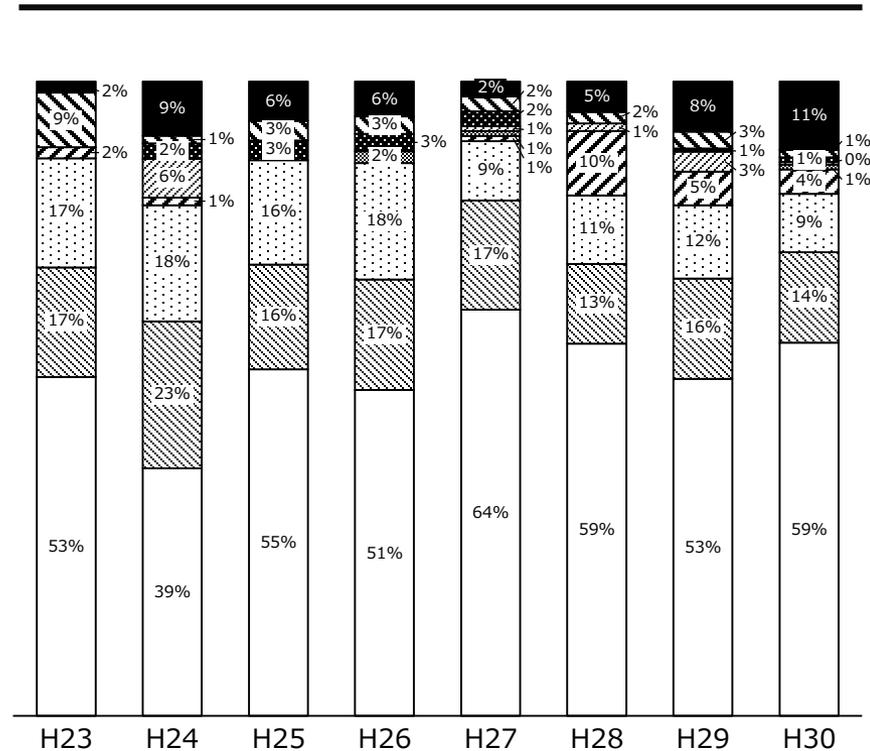
老人ホームで看取りをした医療機関の立地ごとの看取り件数の推移

- 柏市内の医療機関による看取り件数は増加しつつあるもの、割合は横ばいで推移している

実数



割合



市内のエリア別の“老人ホーム”看取り死数の推移

- 多少の増減はあるものの、どのエリアも増加傾向にある。

